

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（中学国語）

学校名 逗子中学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>国語 結果の概要</p>	<p>○全体的に神奈川県・全国の平均をやや上回っている。知識を問う問題・活用的な問題ともに、平均をやや上回っていることから、基礎学力も、それを活用させる力も、おおよそは身につけていると考えられる。</p> <p>●活用的な問題の中で、「自分の考えを書く」問題に課題点が顕著に見られる。基本的な学力は身につけているが、自分の考えを文章化するという点で課題点がある。</p>
<p>話すこと 聞くこと</p>	<p>○スピーチの構成や、より効果的にする問題に対する正答率が高い。また、根拠の筋道を問う問題に対する正答率も高い傾向にある。「人に伝わりやすい文章校正」「正しい話の筋道」という点では、理解が進んでいるように感じられる。</p> <p>●相手に分かりやすいように語句を選択し、適切な言葉に直す問題の正答率がやや低い。「より相手にわかりやすい言葉を考える」という点で、課題点がある。</p>
<p>書くこと</p>	<p>○「書いた文章を読み返し、語句の使い方を工夫して書く」「集めた材料を整理して文章を構成する」などの問題の正答率は、やや高い水準にある。語句の工夫や基本的な文章校正を理解している傾向であると考えられる。</p> <p>●「書いた文章についての助言を基に、自分の表現を見直す」「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」問題の正答率が、全体的にやや低い傾向にある。語彙にまだ乏しさがあると考えられる。また、自分の意志を明確にし、文章化する力にも、まだ不足があると推測できる。</p>
<p>読むこと</p>	<p>○読む能力を問う問題に対する正答率は、ほとんどが全国平均をやや上回っており、基本的な力は身につけているように感じられる。特に「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する」問題においての理解が進んでいることが、正答率から感じられ、その観点においての基本的な学習が進んでいると思われる。</p> <p>●「比喻を用いた表現に着目し、自分の考えを書く」問題の正答率が、全国平均に比べて下回っている。比喻表現に対する理解を、より深めていくような学習が必要であると感じられる。</p>
<p>伝統的な言語文化 と国語の特質に関する事項</p>	<p>○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項において、全体的に正答率も全国平均をやや上回っているものが多く、基本的な学習は進んでいると感じられる。特に「文脈に即して漢字を正しく書く」問題においての正答率が比較的良好なことから、漢字の理解が進んでいると思われる。</p> <p>●読む能力と同様に、「比喻を用いた表現に着目し、自分の考えを書く」問題の正答率がやや低いことから、比喻の特質の理解が乏しいと考えられる。また、言葉を理解し、自ら考えて書くという点に課題点が見られる。さまざまな言葉に触れる経験を持つことと、文章を書く練習が、今後より必要になってくるのではないかと思われる。</p>
<p>生徒質問紙 国語に関する質問</p>	<p>○読書が好きだと答える生徒の割合が、比較的多いことから、朝読書の取り組みや図書室の充実が進んでいる成果であると考えられる。</p> <p>●「国語の授業で、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」という回答において、そう思わない生徒の割合が比較的多い。授業の中で、より意図的にそのような取り組みを行っていく必要がある。</p>

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（中学数学）

学校名 逗子中学校

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>数 学 結果の概要</p>	<p>○数学Aについての正答率は、神奈川県・全国の平均をやや上回っている。また、数学Bについての正答率は、神奈川県・全国の平均とほぼ同等である。基本的な数学的スキルや図形などについての知識理解は、ほぼ身につけている。また、図形を分析し関係性を見いだすことができる。</p> <p>●数量関係の知識理解・等式関係を見いだすことについて課題がある。また、図形の関係性を表現する力に課題がある。資料から必要な事柄を読み取ることができるが、情報処理する力に課題がある。</p>
<p>数と式</p>	<p>○基本的な数量の計算ができ、文字式が表わす意味やその計算もできる。問題場面における考察の対象を明確にとらえることができる。</p> <p>●数量関係を一元一次方程式で表すことに課題がある。事象と式の対応を的確にとらえ、ことがらが成り立つ理由を説明することに課題がある。</p>
<p>図 形</p>	<p>○具体的な図がある問題では、根拠に基づいて問題解決できる。例えば、図形を操作する平行移動の問題でも、具体的な図があることで考えを進めることができている。また、図形の証明なども、証明の基本的な過程が理解できているものは、問題をあきらめずに解いていくことができる。</p> <p>●おうぎ形の弧の長さや面積など、その公式を使ったり代数的に処理することに課題がある。また、空間内の位置関係や平面での回転移動など、数学的な表現で説明することに課題がある。</p>
<p>関 数</p>	<p>○具体的な場面から、2つの数量関係を読み取ることができる。また、関数関係が式で表されたところで、式を活用することができる。</p> <p>●数学的な表現を事象に即して解釈したり、数学的に適切に処理したりすることに課題がある。</p>
<p>資料の活用</p>	<p>○与えられた情報を適切に読み取ることができる。</p> <p>●資料の傾向を的確にとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明したり、活用したりすることに課題がある。</p>
<p>生徒質問紙 数学に関する質問</p>	<p>○数学で学習したことを将来活用できるか考える、ことがらの根拠を考えようとする、この調査に努力して取り組んだ、という内容が、県、全国より上回っている。</p> <p>●数学に対する興味やできるようになりたいという意欲は、県、全国より、やや低い傾向にある。</p>

平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（生徒質問紙）

学校名 逗子中学校

特徴的なことや課題と考えられること等

- ・生活習慣の中で、就寝時間が不規則な生徒が一定数いて、起床時間に影響している。しかし、朝食は比較的とるように心がけている生徒が多い。
- ・家庭生活においても、TVゲームやスマートフォンなどを使って、家庭での時間を過ごしている生徒が多い。家庭でのスマートフォン使用方法のルールについては、守る意識は比較的ある。家庭学習の時間は比較的短い。
- ・本をよく読み、図書館へもよく足を運ぶ。読解力も深まっている。
- ・部活動に関しても入部率も高く、登下校の時間も短い生徒が多いので、熱心に活動している。
- ・まわりの意見を受け止めて、自分の意見を持つことに苦手意識がある。
- ・教員を含め、地域の大人とも交流することに抵抗があまりなく、社会的なことに関する意識は高い。ボランティア活動にも取り組み、立場の弱い人たちへの関心は高い。

平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取り組み

学校名 逗子中学校

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

- ・家庭と連携をとりながら、自分で学習する習慣を安定化させる。
- ・本を読むことが好きな生徒が多いので、今後も落ち着いた環境を作り、読解力を深めさせる。
- ・卒業後も社会的な活動に目を向けていけるように、学校内の活動にも参加を促していく。
- ・協力的な人間関係を築いていけるように、道徳・総合的な学習の時間・学級活動等で自己理解・他者理解を深める活動をしていく。